

製品名: PAK4/5/6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15709**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	PAK4 PAK5 PAK6
別名	PAK4; KIAA1142; Serine/threonine-protein kinase PAK 4; p21-activated kinase 4; PAK-4
遺伝子 ID	10298.0
SwissProt ID	O96013;Q9P286;Q9NQU5
免疫原	抗血清はヒト PAK4/5/6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

背景

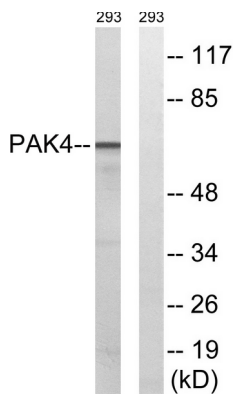
PAK タンパク質は、セリン / スレオニン p21 活性化キナーゼファミリーであり、PAK1、PAK2、PAK3、および PAK4 が含まれます。PAK タンパク質は、Rho GTPase を細胞骨格再構成および核シグナル伝達に結び付ける重要なエフェクターです。これらは、低

分子GTP結合タンパク質であるCdc42およびRacの標的として機能し、幅広い生物学的活性に関与していることが示唆されています。PAK4は、Cdc42HのGTP結合型と特異的に相互作用し、MAPキナーゼのJNKファミリーを弱く活性化します。PAK4は糸状仮足形成のメディエーターであり、アクチン細胞骨格の再構成に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションがみつかっています。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: JNK経路を活性化します。アクチン細胞骨格の再編成と糸状仮足の形成に役割を果たします。タンパク質ホスファターゼSSH1をリン酸化して不活性化し、アクチン結合/脱重合因子コフィリンの阻害性リン酸化を増加させます。コフィリン活性の低下は、アクチンフィラメントの安定化につながる可能性があります。ARHGEF2をリン酸化します。PTM: CDC42/p21による活性化時にセリン残基が自己リン酸化されます。PTM: FGFR2の刺激によりチロシン残基がリン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。STE20サブファミリー。類似性: 1つのCRIBドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: FGFR2およびGRB2と相互作用する(類似性による)。GTP結合型CDC42/p21とは強く相互作用するが、GDP結合型CDC42/p21とは相互作用しない。RAC1とは弱く相互作用する。基質ARHGEF2と相互作用する。組織特異性: 前立腺、精巣、結腸で最も高い発現を示す。

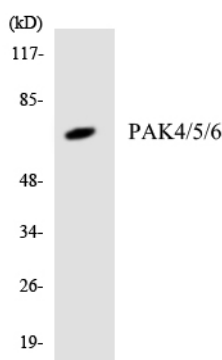
研究分野

ErbB_HER;軸索誘導;接着斑;T細胞受容体;アクチンと細胞骨格を制御;腎細胞癌;

画像データ



PMA 125 ng/ml 30μl 処理した K562 細胞ライセートの PAK4/5/6 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングした。



PAK4/5/6 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。